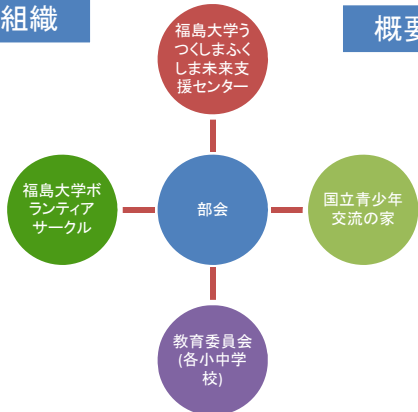


文部科学省平成24年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」 『郷土に想いをよせる「同窓会」』モデル化事業

平成23年3月11日に発生した地震・津波、そして原発事故に伴い、被災地域の多くの子どもや保護者が県内外へと避難した。震災前は、郷土のよさにふれながら、自分を取り巻く人・こと・ものに関わり合いを深めることが当たり前のようにできていた。しかし、「もう一度同じクラスだった友だちと一緒に学習したい」「もう一度あの町のあの場所に行きたい」「もう一度あのお祭りに参加したい」と、郷土に想いをよせることが「夢」として語られる現状にある。当事業は、今一度、郷土の良さを感じたり見つめ直したりすることができるような「同窓会」を実施し、これをモデル化し県内各市町村へ提供するものである。

運営組織



概要

平成24年度はプログラム作りとして双葉郡川内村(小学5年生から中学2年生までの約120名)及び浪江町津島地区の約90名)とその保護者を対象に、2期(浪江町津島地区・・・10月予定、川内村・・・11月予定)に分けて実施

※福島大学つくしまふくしま未来支援センターが支援活動を行っている双葉郡川内村及び浪江町にご協力いただく。

実施のポイント

- ・できるだけ多くの児童生徒・保護者が参加することのできる環境での実施(西郷、猪苗代)
- ・作られた思い出だけでなく、自らが作る思い出として、児童生徒が主体的に計画するプログラム枠の設定
- ・郷土に想いをよせることができるような郷土(地元)の住民や伝統芸能とのふれあいの場の設定
- ・県内外避難者のストレスの軽減を図ることができるような時間と場の設定やカウンセリングの実施

実施の効果

- ・郷土に心をよせる時間を過ごすことによって、現状の生活を見つめ直すことができる。
- ・郷土の伝統や文化にふれることによって、郷土のよさを感じることができる。
- ・地域の人々とふれあうことによって、郷土に関わる情報交換や情報共有をすることができる。
- ・県内外避難者同士が会話をすることによって、ストレスの軽減を図ることができる。
- ・自主的なプログラムの作成や参加を通して、児童生徒の自主性やコミュニケーション能力等の育成を図ることができる。
- ・モデル化事業の実施を通して、各自治体への事業提案を行うことができる。

運営協力団体等

共催:浪江町教育委員会、川内村教育委員会

後援:三菱UFJニコス株式会社

協賛:株式会社ニコン

協力:堀下さゆりさん(ミュージシャン)
浪江町津島地区、川内村の住民のみなさん

テーマソング「この街に咲く花のように」堀下さゆり

実施プログラム

オリエンテーション

近況報告会

児童・生徒主催プログラム(スポーツ大会など)

集いの広場にて、地元のお祭り等を実施(故郷の住民との交流)

未来カプセル(未来への手紙)作成

【保護者対象】教育相談

【保護者・地域住民対象】放射線に関する講演会

